

八月廿六日
二九六

陸軍省
陸軍部

内閣第三七号

陸軍省

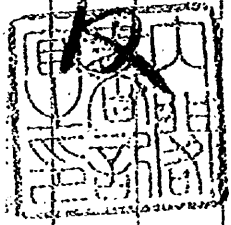
陸軍部

西蔵海軍事務所
引下為去之...

月日通切...

...

...



海軍大臣
...

百三九

内閣

0225

普賢二九五六號三
明治十九年六月廿六日

甲二二七

海軍恩給令ニ照準退職恩給之件

姓名	本職		退職	恩給	增加	恩給	下賜	始期	恩給	四期	別渡
	退職海軍築師小林太郎作		七號表上等服役十二年ノ額	金五拾四圓	丙號表一第項	金	明治十九年六月廿二日ヨリ 明治十九年七月初度 金五圓三拾三錢五厘	但日數九日分	年額四分一	金拾三圓五拾錢	
本籍	住所	誕辰	服	役	及	從	軍	年	算	則	
東京府士族	東京府麹町區内幸町三丁目一番地	安政五年九月二十日	始期	本職ノ	從	處刑迄	終期	終期	終期	終期	
			明治八年五月一日	明治十五年六月廿一日	實役年月	加算	明治十九年五月四日	十一月四日			

丁一三一

海軍恩給第五表百四十

○海軍省

0226

甲二一號 七ノリ

普第二九五六號

三 明徳七年六月廿六

海軍省令 第一〇七號 明治三十二年六月廿六日

十年八月四日
十年八月廿五日
恩給の額を以て
航海の費用を以て
加算せしむるに
由る

0227

番地

0226

一
井

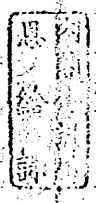


二番地

0226

本共

中
慶
生
活
の
情
報
年
報
の
編
纂
に
関
し
て
の
事
を
記
す
。
一
九
三
七
年
九
月
一
日
起
。
東
京
方
々

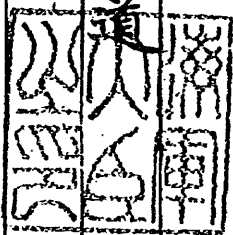


0228

右退職海軍楽師小林太郎作儀ハ服役満期ヨリ
本月廿一日退職申付候処全人儀ハ明治八年
五月ヨリ本年五月ニテ服役実期満十一年余ニ相
成候ニ付海軍恩給令第十一條ニ據リ前書ノ通
退職恩給下賜相成度別紙書類相添此致進達候
也

明治十九年六月三十日

海軍大臣伯爵西郷從道



内閣総理大臣伯爵伊藤博文殿

0229

軍乾 月七 乙亥 号

領 安 月 一 天 八 乙 亥 号 乙 亥

退職恩給願書進達

海軍樂師小林太郎作

右者今般般役満期ニ因テ退職被申付矣ニ付
テハ別紙之通恩給願書奉出矣奈尚遂審査候
処相違付之矣ニ付海軍一恩給令ニ據リ相
當ノ恩給下賜相成度願書相添込段候進達
呈也

明治十九年五月四日

横須賀鎮守府司令長官海軍中將五野野矢君勅

海軍大臣伯耆西郷從三殿

嘉乙九廿六号

百四十一

海軍省

0230

退職恩給願書

太郎作候

0231

今般願之通、退職被申付候、於、海軍
恩給令之基キ相當之恩給下賜度別紙履
歴明細書式通相添此段奉願候也

明治十九年五月四日

海軍之樂師 小林太郎作
(捺)

海軍大臣 伯爵 西郷從道 殿

百四十二

履歷明細書

海軍之樂師小林太郎作

明治七年六月十二日 一等樂手申付 明治八年五月一日起算

全 九年八月三日 任海軍樂手

全 十五年六月廿日 任海軍樂師

全 十九年六月廿日 服役滿期ニ付退職ヲ命ズ

百四十三

海軍省

0232

第九九六號

海軍恩給令ニ照準退職恩給之件

本職 姓名	退職海軍楽師小林太郎作
退職 恩給	七號表上等服役十一年ノ額 金五拾四圓
員傷 增加 恩給	内號表 等第 項 金
恩給	明治十九年六月廿二日ヨリ
下賜 始期	明治十九年 七月初度 金三圓三拾三錢五厘 但日數九日分
恩給 四期	年額四圓ノ一 金拾三圓五拾錢
別渡	
本籍	東京府士族
住所	東京府麹町區内幸町二丁目一番地
誕辰	安政五年九月二十日
服 始期	明治八年五月一日
及 從 年 數	明治十五年六月廿一日 實役年月 加算
軍 處別 終期	
年 終 期	明治十九年五月四日
算 年 日	
則 全 數	十一年四日

丁
二
一

海軍恩給第百七十四表

○海軍省

0233

右退職海軍楽師小林太郎作儀ハ服役満期ニヨリ
本月廿一日退職申付候処全人儀ハ明治八年
五月ヨリ本年五月ニテ服役実期満十一年余ニ相
成候ニ付海軍恩給令第十一條ニ據リ前書ノ通
退職恩給下賜相成度別紙書類相添此改進達候
也

明治十九年六月三十日

海軍大臣伯爵西郷從道

内閣総理大臣伯爵伊藤博文殿

本席軍務局廻

0234

決裁濟

普三九六
八月二日

九年八月二日

秘書官 (李箱)

淨馬盟 校合 (小田)

八月二日

(行)

聯帶 主務

大臣

次官

(山)

主務

秘書官

(李箱)

(村)

按

退職軍、樂師、小幡太郎作、恩佐、石賜
之義、普、第、二、九、五、六、号、ノ、ニ、シ、以、テ、海、軍
大臣ヨリ、進、達、加、成、候、處、左、ノ、都、合
有、之、其、茶、法、却、下、ノ、義、法、取、付、キ、事

百四十五

0235

海軍省

正統後及法政新編

十九年八月三日

大任 校書

内閣書院

0236

官房

軍神第一二五七

奏

別括小林太郎作恩給下賜之儀ハ今ノ儀曩キ
退職被余奏ニヨリ恩給下賜之儀仰決裁ノ上
内閣ヘモ仰進達相成候処初務年數不立ノ
故以テ右退職ハ仰取消更ニ免官相成候ニ付テハ
別紙仰消印方糸ニ内閣ヘ仰進達有之書類
御下度方及領守府長官申書示下度方
可然仰取計相成度此段及仰依頼候也

明治十九年七月三十日

軍務局長井上少將

官房秘書官本橋大佐殿

百四十六

海軍

0237

決裁濟

五月廿六日
六月廿日

昭和十一年六月廿日

主務

淨馮 校令

官房長

本宿

課係

聯帶

主務

大臣

次官

軍務局長

法規課長

主任課係

呈議按

百四十七

0238

海軍恩給令ニ照準退職恩給ノ件

<p>本職 姓名 退職海軍樂師小林太郎作</p>	<p>退職 恩給 七號表上等服役十一年ノ額 金五拾四圓</p>	<p>負傷 増加 恩給 丙號表 等第 項 金</p>	<p>恩給 下賜 始期 明治十九年六月廿二ヨリ 明治十九年七月初度 金壹圓三拾三匁五厘 但日數九日分</p>	<p>恩給 四期 割渡 年額四匁ノ 金拾參圓五匁</p>	<p>本籍東京府士族 住所東京府麹町区西草場三丁目一番地 誕辰安政五年九月廿日</p>	<p>服役 始期 年 月 日 明治八年五月一日</p>	<p>及 從 年 月 日 明治十五年六月廿日</p>	<p>軍 從 年 月 日 加算</p>	<p>算 終 年 月 日 明治十九年五月四日</p>	<p>則 全 服 役 年 數 十一年四日</p>
----------------------------------	---	--	--	--	---	---	--	---------------------------------	--	--

海軍恩給第壹表

百六

○海軍省

0239

右退職海軍樂師小林太郎作儀ハ股役満期ヨリ本月
廿一日退職申付候処今人儀ハ明治八年五月ヨリ水
年五月ニテ股役実期満十一年余ニ相成候ニ付海軍
恩給令第十一條ニ據リ前書ノ通退職恩給下賜相成度
別紙書類相添以段進達候也

明治十九年六月三十日

海軍大臣爵姓名

内閣総理大臣爵姓名宛

0240

元六
月九日

軍務局

軍乾第 七二六號

鎮兵第一六八三號

退職恩給願書准達

海軍樂師 小林太郎作

右者今般服役満期ニ因テ退職被申付致
ニ付テ別紙之通恩給願書出致久ホ為遂審
査ニ差支相達ニ至ニモ海軍恩給令ニ
據テ相与ニ恩給下賜相成度願書相係
比般進達也也

明治十九年五月四日

海軍大臣 伯爵 西郷從道 殿
海軍中將 吉野中兵衛 殿

法規課
伊東
伊東
伊東

0241

												治 皇 統 緒
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	------------------

0242

退職恩給願書

方部作儀

0243

今般願之通り退職被下付候於海軍
恩給令基_キ相嘗之恩給下賜度別紙履
歴明細書並通相添此段奉願候也

明治十九年五月四日

海軍楽師小林太郎

海軍大臣伯爵西郷從道殿

百五十一

扣

履歷明細書

海軍樂師 小林太郎 作

明治六年五月四日 海軍鼓手申付

全 年六月十日 軍樂隊編入申付

全 年十月廿日 四等樂手申付

全 年十二月廿日 二等樂手申付

全 七年四月廿日 職務格別勉勵業而上達 府為褒賞金三圓下賜

全 年六月十日 一等樂手申付

全 年七月三十日 龍驤艦隊組 清國航海

全 年十月廿日 帰朝

全 九年六月廿日 春日艦隊組 青森へ出張

年四月十日
十七歳
算入

全	年七月廿日	帰京
全	年八月三日	任海軍樂手
全	年九月三日	六十日間帰省
全	年十月六日	帰京
全	十年正月廿日	一等日給下賜
全	十年五月二日	滿六十年勤仕且行状端正依リ善行章一線ヲ下賜
全	年正月廿日	職務勉勵有為懋勞金三四下賜
全	十年五月十三日	八級加俸被下
全	年七月一日	六級加俸被下
全	年七月二日	御還幸之際御召杖柔艦乘組神戸出張
全	年正月廿日	帰京
全	年正月廿日	五級加俸被下

全 西 年 七 月 十 日	四 級 加 俸 被 下
全 年 十 月 三 日	善 行 章 一 級 增 賜
全 年 十 月 廿 日	三 級 加 俸 被 下
全 十 五 年 六 月 廿 日	任 海 軍 樂 師
全 十 六 年 十 月 廿 日	拾 六 級 加 俸 被 下
全 十 六 年 五 月 四 日	先 十 一 年 間 勤 続
全 年 七 月 廿 日	二 等 日 給 被 下
全 十 九 年 七 月 廿 日	賜 修 滿 期 自 給 一 等 日 給 之

百五十二

0246

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

0247

軍務局長

普三〇八
十月五日

十九年十月四日

大臣

次官

軍務局長

法規課長

主任課僚

主務

秘書官

淨寫

校合

發付
十月五日

聯帶

主務

呈議 持

百五十三

0248

海軍恩給令ニ照準退職恩給之件

本職	退職海軍二等兵曾波江野嘉助	姓名	曾波江野嘉助	本籍	鹿児島縣薩摩郡曾波村四百七拾番地	往所	鹿児島縣薩摩郡曾波村四百七拾番地	誕辰	嘉永四年三月十二日	服	始期	明治六年八月十日	及	役	本官ノ	從	軍	從	年	軍	年	終	期	算	年	月	日	則	全	服	役	年	數	增	減	差	引	全	服	役	年	數	
退職	乙號表上等服役十七年ノ額	恩給	金六拾七圓五拾五	負傷	内號表	等第	項	金	明治十九年七月廿ヨリ	恩給	下助	明治十九年七月廿ヨリ	恩給	始期	明治十九年十月初度	恩給	四期	割渡	金拾六圓八拾七圓五拾五	年	額	四	分	一	金	拾	六	圓	八	拾	七	圓	五	拾	五	但	日	數	七	十	二	日	分

海軍恩給令第百五十四條

海軍省

0249

明治十八年十月廿一日
（子） 臣 介

右退職海軍二等兵曹波江野嘉之助儀、浅间船乗
組中明治十八年十月より漢病内傷、海軍服役に堪はらば
本年七月廿日依願退職申付、然れども全人儀ハ服役に
期十二年余に及ぶ之に從軍年數ヲ加算スルハ満十七年余に
相成、之に付海軍恩給令第十一条に依り、前書之儀、退職
恩給下賜相成、度別紙書類相添、此致、進達、至也。

明治十九年十月廿一日
海軍大臣爵氏名

内閣総理大臣爵氏名宛

0250

恩覆上第二十号

恩給減額書

二善寺島泊江部あり

右科病より由り 猶存に堪へ難きより 未嘗に恩給
恩給より賜ふ教諭出せし由り 亦り付し者教
諭書より送しし由り 亦り 明正六年十月
より 船より 着し 原因ナリ 寒熱往来 咳
嗽 痰 声 嘶 嚙 等 あり 及 び 重 重 肺 前 後
面 濁 音 搖 動 等 あり 且 び 善 寺 一 派 見 じ 由 り 乙 勢
と 原 因 せ ざ べ し 肺 方 派 ナ ル 一 證 據 明 正 寺
向 け 海 軍 区 区 本 留 山 村 差 所 海 軍 区 区 区 区 区 区 区
善 寺 一 派 別 證 書 一 西 勢 敷 等 一 西 勢 敷 等 一

百五十五

海軍区

0251

恩給廳 奏 恩給員 廻

軍部第七三八號

鎮兵第一八〇七號

六〇八

軍務局

退職恩給願書送達

海軍二等兵曹 波江新嘉之助

右者今般病氣之依り長職

被申付候に於て別紙之由に因給願

出候条に於て審査相違候旨に

旨海軍恩給官に於て相違候旨に

給下賜相成度願書相添出候

進章仕候也

明治十九年六月廿二日

海軍大臣 西郷從道 殿

海軍大臣 西郷從道 殿

法規課 伊東 伊東 伊東

百奉之

海軍省

0253

二奉兵曹波江野嘉三助退職

恩給教之別申

二奉兵曹波江野嘉三助

右支別紙之角退職恩給教書差上出
受抄書册之之差系北角之因心給下
切北年受其改別申仕也

明治十九年六月十日

横須賀屯営長海軍中佐大野義方

横須賀鎮守府支長官海軍中佐大野義方

百五十五 海軍省

0254

批

診断証

浅間艦ニ乗ル者波江野嘉三助

明治十九年五月五日

右者明治十九年十月頃より肺病に罹り本
年三月横須賀病院に入院し三月廿日本院
に轉じ種々治療を加ふに益毛到底難治ノ症付
海軍職務に堪へざる者ト致す断証也

明治十九年五月五日

東京海軍病院

海軍大軍医 芳村 正巳

東京海軍病院長

百五十八

海軍省

0255

海軍之通事 河村豊洲

海軍通事

0256

退職恩給状書

私儀

下移致之通、退職福中、日給、於下
海軍恩給令、其差、相中、恩給、
賜厚別、帝履歴の、細書之通、相
添、此、状、を、致、也
昭和九年九月十日

横濱製薬株式会社

百五十九

0257

海軍大臣伯耆西郷從道 藏

海軍大臣伯耆西郷從道 藏

0258

履歷明初書

海軍二等兵曾波江野嘉之助

明治六年正月 四等水夫申付

全 七年正月 三等水夫申付

全 八月 二等水夫申付

全 八年正月 淺間艦乗組品海出艦樺太工廻艦

全 青膏 品海工帰着

全 九年四月 淺間艦乗組横濱出艦朝鮮工廻艦

全 年八月 横濱工帰着

全 年九月 淺間艦乗組横濱出艦為社討萩海工追撃

全 青膏 帰京

全 十年正月 一等水夫申付

百五十一

履歷明初書

0259

全 二月廿日 浅间艦乗組薩賊為征討横濱出艦九州廻艦

全 十月十日 帰京

全 十一年正月廿日 清輝艦二乗組横濱出艦九州廻艦

全 十二年四月廿日 帰朝

全 十三年正月廿日 任櫛棲長房

全 十四年七月廿日 清輝艦二乗組居留人民保護朝鮮国廻艦

全 十五年正月廿日 横濱工帰着

全 八月廿日 任三等兵曹

全 八月廿日 清輝艦乗組朝鮮国工廻艦

全 十月廿日 品海工帰着

全 二月廿日 任二木兵曹

全 十六年七月廿日 清輝艦乗組朝鮮国工廻艦

全 十七年正月廿日 帰京

正嘉祥七年
依願病退職

百廿一

海軍省

0261

決裁済

三〇四七
六月廿日

官房長
本宿

浄馮
兼合

課僚

藤帯

主務
六月廿日

昭和四年六月廿日

主務

大臣

次官

軍務局長
法規課長

主任課僚

呈議
按

百之三

0262

恩給

號明治 年 月 日

進達

○主任軍務局長兼書記長

海軍恩給令ニ照準退職恩給之件有上請

官位
姓名

退職海軍中佐服部潛藏

退職
恩給

甲號表五等服役十六年ノ額
金六百五拾圓

負傷
增加
恩給

内號表 等第 項
金

恩給
賜
時期

明治十九年五月廿三日ヨリ
明治十九年七月初度
金六拾九圓六拾四錢三厘
恒日數三十九日

恩給
時期

手親四分一
金百六拾貳圓五拾錢

割渡

本籍山口縣士族
住所山口縣豐浦郡豐浦村字土居山
誕辰嘉永五年十月十五日

服 年 始 期
本官ノ 年 月 日
明治六年十二月七日
明治十五年三月廿日

及 役 年 月 日
陸軍ノ 年 月 日
文官中ノ 勤務
年 月 日
從 年 月 日
實 年 月 日
加算四年

算 年 終 期
非職係給
處刑及逃亡
年 月 日
明治十九年五月廿二日

則 算 年 終 期
全服増減差引
年 月 日
十六年五月十七日

海軍恩給令第一表

○海軍省

0263

右退職海軍中佐股部潛藏儀ハ依疾病本年正月廿日退
職被仰付候処全人儀ハ股役実期十二年余ニシテ之、後軍年
數ヲ加算スルキハ滿十六年余ニ相成候ニ付海軍恩給令第
十條ニ依リ前書ノ通退職恩給下賜相成度別紙書類相
添此段進達候也

明治十九年六月三十日

海軍大臣爵氏名

内閣総理大臣爵氏名宛

0264

明治三十四年六月一日

軍務局

宣統元年七月一日

退職恩給證書

海軍大臣

今般依疾病退職所付有之村々之由軍
恩給令之奉有 加高之恩給下賜 別年
履歴以細書却通加添外是等事 謹此

明治三十四年六月一日

退職海軍中佐 藤野 啓

海軍大臣 伯耆 西郷 從道 殿

百六十四

0265

加

履歷明細書

退職海軍中佐服部潛藏

明治六年三月七日 任海軍大尉

全 七年四月九日 日進艦ニ乗組臺灣工航行戦役ニ従事ス

全 八年一月廿日 帰朝ス

全 八月十六日 露頭ニ乗組薩加工航行

全 十月四日 帰朝ス

全 十年六月三日 於神戸鴨翔丸ニ乗組戦地摸様為探偵九州地方ニ出張

地方ニ出張

全 七月三日 帰京

全 十二年七月廿七日 任海軍少佐

全 十三年四月八日 波斯國工航行

百六十五

海軍省

0266

清
皇
朝

明治十三年九月廿日 帰朝

全 十五年十月廿日 任海軍中佐

全 六月十日 病氣依願東海鎮守府在勤被差免

全 十六年六月十日 轉地療養為願濟上帰国

全 十九年十月廿日 依疾病退職被仰付

0267

府藏

三〇八
十月三日

秘書官
(朱宿)

淨馬 校合

發付
十月三日

聯帶
主務
(印)

十九年十月旨

主務

大臣

次官 北山 軍務局長

法規課長
(印)

主任課僚
(印)

呈 後 抄

決裁

百三十一

0268

海軍恩給令ニ照準退職恩給之件申請

本職 姓名	退職海軍兵船内技師安西重房	
退職	上就表士等服役十二年ノ親	
恩給	金六拾四	
負傷 増加 恩給	内就表 第 項 金	
恩給	明治十九年七月廿一日ヨリ	
下賜 始期	明治十九年 金拾五圓七拾参銭九厘 十月初度 但日數七十二日分	
恩給	年額四分ノ一	
四期 割渡	金拾五圓	
本籍	高知縣士族	
住所	高知縣三浦郡逸見村六百五番地寄内	
誕辰	天保十一年九月生	
服 期	明治八年九月廿三日	
役 本官ノ 年月日	明治十五年八月十日	
及 從 軍 年 數	實役年月 按後十三日 加算一ヶ年	
軍 從 年 終 期	明治十九年六月二十四日	
算 年 終 期	明治十九年六月二十四日	
則 全 服 役 年 數	十二年一ヶ月三日	

海軍恩給令第百三十一号
海軍省

0269

右退職海軍少將内教授安園重房儀疾病ニ依リ本年
 七月廿日依願退職申付差込三人儀ハ服役実期十二年
 余ニシテ之ニ從軍年數ヲ加算スル^中服役年全數隔十二年余ニ
 相成差込付海軍恩給令之第十一條ニ依リ前書之通退
 職恩給下賜相成度別紙書類相送付致直達差込也

明治十九年十月廿一日

海軍大臣辭氏 宛

内閣總理大臣 辭氏 宛

0270

左眼を赤角膜潤濁加之虹彩應着して伸縮ノ機
能ヲ失ス故ニ視力僅ニ咫尺ヲ辨スルノミ
海軍少佐ノ位ニ在リ
學ニ餘力アリ者ナリ位ニ在リ
海軍少佐ノ位ニ在リ
表ニ錦ノ級ニ在リ
連署ト申付也

明治十九年七月

恩給調査委員 島田修海

全 室吉 純

全 中住秀 豊

全 高木 寛

海軍少佐 伯爵 西郷 從道 殿

0272

恩給調査表(其廻)

軍機第七四五號

鎮兵第一九二五號ノ乙

三〇八
六廿八

退職恩給類書之教付進達

海軍省事務及安因重行

右に於て叙給之旨、退職恩給類書之教付進達

に於て叙給之旨、退職恩給類書之教付進達

に於て叙給之旨、退職恩給類書之教付進達

に於て叙給之旨、退職恩給類書之教付進達

に於て叙給之旨、退職恩給類書之教付進達

横濱鎮守府支隊長海軍省事務及安因重行

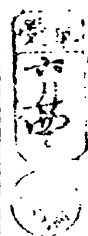


海軍大臣伯爵齋藤實道殿

百五十九

1888. 10. 12

法規課



0273

診断證

横須賀屯営海軍教授役

安岡重房

四十五年七月

右者明治十六年八月下旬ヨリ兩眼顆粒性結膜炎魚
角膜潰瘍を罹リ醫治ニ依リ一時輕快セシガ同十七
年七月ニ至リ前症再々増進スルヲ以テ同年八月一日横
須賀海軍病院ニ入院シテ東京海軍病院ニ轉
シ施療ノ末視力復セスト雖モ炎症大ニ消散スルヲ
以テ同十八年七月三日輕快退院セシガ尔来前症
著シキ変状ナシ同十九年六月十日之ヲ檢スルニ右眼ハ
角膜混濁シテ灰白色ニ變ジ全ク失明シ左眼ハ角

百七十一

海軍省

0276

海軍
膜潤濁粗糙ニテ且ツ新生ノ血管著シク怒脹セ
リ加之虹彩ハ癒着シテ伸縮機能廢絶シ隨テ視
力欠乏咫尺ヲ辨スルニ依テ終身全ク海軍職務
ニ堪ハサルモノト致診斷候也

明治十九年六月十二日

横須賀屯営軍医長

海軍少監 村瀬三英

横須賀鎮守府軍医部長

臨監 海軍少監 加賀美光賢

0277

履歷

海軍艦内教授役

安岡重房

一明治八年五月廿三日海軍警吏補申付候事即日入營

天保十一年九月生

全年六月十日富士山艦乗組申付候事

全年七月廿日入院

全九月九日退院

全年七月三十日在院中免乗申付候事

一全九年四月廿日浅間艦乗組申付候事

全七月三日横濱出艦朝鮮國江華島航海

全年九月廿日帰朝

全年十月三十日横濱出艦下ノ瀬廻艦ノ末款賊徒追討ノ為全港

戦争ノ鎮定ニ付全十一月横濱入艦

一全十年一月三十日免艦鎮守府入營

申奈川系百七十一

浦部

0278

援後

安岡重房

付候事即日入營

天保十一年九月廿

候事

九月九日退院

候事

候事

牛島航海

未款賊徒追討ノ為全港ニ北テ

艦ス

南郡

0278

安政四年八月
満十七歳

0279

全七月廿六日横須賀屯集所出張

全八月三十日艦内教授役介申付候事

全九月三十日東海水兵本營定負編入候事

全十月十日定負申付候事

全十二年五月廿二日給下賜候事

全十三年四月廿日善行章一線授與候事

全十二月廿日一等日給下賜候事

全十五年一月廿日善行章一線増與候事

全八月十日任海軍艦内教授役 但二等日給下賜候事

全十二月廿三日一等日給下賜候事

全十六年十月五日善行章一線増與候事

全十七年八月一日病院入院 全十八年七月三日退院

全十九年六月七日叙勲八等賜白色桐葉章

道令三拾陸
軍令三拾陸
檄後十九

全十九年七月廿日 依麻病退職